



奉 祝
 天皇陛下御即位二十年
 第百八拾九号

「宮さまの思い出展」オープニングの挨拶を述べられる高円宮妃殿下

終わりに今回の「宮様の思い出展」に対し、ご協力を頂いた関係各位に心から御礼申し上げる次第である。

来場者一同感銘を受けた。

二十日までの期間中は、約三千名に来場頂き、盛会裡のうちに無事終了した。

翌十八日の展示会オープニングにも妃殿下に御臨場賜り、丁寧なる御説明に、

会場に、妃殿下に御臨場を賜り、「宮さまの思い出展」オープニングレセプションを執り行った。当日は県内外から約二百五十名の方々が参集した。

示された。

宮さまの思い出展に先立ち前日の六月十七日、熊谷市ホテルガーデンパレス

を会場に、妃殿下に御臨場を賜り、「宮さまの思い出展」オープニングレセ

プションを執り行った。当日は県内外から約二百五十名の方々が参集した。

翌十八日の展示会オープニングにも妃殿下に御臨場賜り、丁寧なる御説明に、

来場者一同感銘を受けた。

二十日までの期間中は、約三千名に来場頂き、盛会裡のうちに無事終了した。

翌十八日の展示会オープニングにも妃殿下に御臨場賜り、丁寧なる御説明に、

会場に、妃殿下に御臨場を賜り、「宮さまの思い出展」オープニングレセ

プションを執り行った。当日は県内外から約二百五十名の方々が参集した。

示された。

宮さまの思い出展に先立ち前日の六月十七日、熊谷市ホテルガーデンパレス

を会場に、妃殿下に御臨場を賜り、「宮さまの思い出展」オープニングレセ

プションを執り行った。当日は県内外から約二百五十名の方々が参集した。

翌十八日の展示会オープニングにも妃殿下に御臨場賜り、丁寧なる御説明に、

来場者一同感銘を受けた。

二十日までの期間中は、約三千名に来場頂き、盛会裡のうちに無事終了した。

翌十八日の展示会オープニングにも妃殿下に御臨場賜り、丁寧なる御説明に、

会場に、妃殿下に御臨場を賜り、「宮さまの思い出展」オープニングレセ

プションを執り行った。当日は県内外から約二百五十名の方々が参集した。

示された。

宮さまの思い出展に先立ち前日の六月十七日、熊谷市ホテルガーデンパレス

を会場に、妃殿下に御臨場を賜り、「宮さまの思い出展」オープニングレセ

プションを執り行った。当日は県内外から約二百五十名の方々が参集した。

翌十八日の展示会オープニングにも妃殿下に御臨場賜り、丁寧なる御説明に、

来場者一同感銘を受けた。

二十日までの期間中は、約三千名に来場頂き、盛会裡のうちに無事終了した。

翌十八日の展示会オープニングにも妃殿下に御臨場賜り、丁寧なる御説明に、

会場に、妃殿下に御臨場を賜り、「宮さまの思い出展」オープニングレセ

プションを執り行った。当日は県内外から約二百五十名の方々が参集した。

高円宮憲仁親王殿下御ゆかりの品々で綴る 宮さまの思い出展

庁長 中山 高 嶺



発 行
 さいたま市大宮区高鼻町1-407
 埼玉県神社庁
 電話048(643)3542番
 編集
 庁 報 室
 印刷
 アサヒ印刷(株)

教育の観点から見た神社とは

—心力を涵養する—

古閑 博美



大学の専任教員の喜
びに、ゼミナールを持
つ、ということがあり
ます。ゼミナールは、
辞書に「教育方法の一。

教員の指導の下に少数の学生が集まって研究し、発表・討論などを行うもの。演習。ゼミ。セミナー。」とあるように、研究を主たる目的としています。それだけでなく、私は全人教育の場ととらえ、より親密な人間関係のもと、人間形成の一助となることを目指しています。

成長にしたがい人との触れ合いのしかたは変化していきます。社会でさまざまな人たちと触れ合うなか、自分を見失いそうになって悩むときがあります。前向きに生きるための魅力行動を研究しようと、「魅力行動学®」と命名したゼミを開講しました。それは、机上の学問というより実践学であり、自然を隣人とする日本文化の視座で学外研修をいくつか企画し、今日にいたっています。

年齢を重ねることは体験を重ねることです。その過程で、社会への理解を深め、親(祖先)の有り難さ、自然の尊さに新鮮な驚きや感謝の念がわいてきます。私の父は常々「自

然は大師、人は師、われは学徒」と申し、なかでも自然に学ぶことを強調していました。喜怒哀楽といいますが、人生は楽しいだけではなく、ときに悲しみや憎しみの感情に翻弄されることがあります。そのようなとき、自分のところとどのように向き合えばよいのでしょうか。人は他人から力を得る一方、他人によつて力をそがれることもあります。人対人の関係だけを思うのであれば、人としての成長には限界があるとはいえないでしょう。自然と接し自然に学ぶことの大切さに気づくことで、より大きな存在、人の善意、配慮し思いやる態度等により深く注目するようになりました。

教育の要諦は「徳育・体育・知育・美育」の総合にあるといわれます。近年、徳育は他に比して分が悪いことは明白です。いまや、高校生は言うに及ばず大学生でも徳育という言葉は知りません。言葉を知らないのですから、そのありようを求めることはできません。魅力行動は「行動の質、量、形、意味において魅力を付与した行動」のことですが、それは「心力・知力・体力」が作用して、はじめて意味をなします。私は、身の回り三十センチメートルから始める行動実践として、「さ

ささ親切」を提唱しています。「さつそく」さわやか」「さりげなく」をモットーに、みずから一歩踏み出し、他に働きかける行動です。そこに、精神の活動力(心力)が乏しいと、自発的行動や、行動に工夫の期待などできません。

心力はどうしたら身につくのかを考え、僧堂教育に学ぶことにしました。北鎌倉の円覚寺にある居士林は在家修行者のための道場です。三泊四日の夏期学生大接心にゼミの一期生とともに参加したのは、今から二十年前のことになります。僧堂の規矩にしたがって、坐禅、提唱、作務など行住坐臥の一日を過ごします。修行中は私語厳禁であり、間食、風呂でのシャンプー、携帯電話も禁止です。学生にとつては携帯電話の使用禁止が一番こたえます。食事は簡素で、朝は粥と梅干、昼は麦飯に味噌汁と沢庵、夕食は昼に出た麦飯と味噌汁を炊き合わせた一椀と沢庵です。たまに安座が許されますが、堂内では原則として坐を組むことと正座のみです。直日の指示で行動し、作法は流れるように、と指導されます。

坐禅は腰を立て、地球の真ん中とつながっている自分をイメージします。数息観を行い、ここを集中させます。じつと座り続けるなか、こころの働きを封じ込め、普段あまり意識することのない自分の呼吸に意識を集中していると、自然(天地)とのつながりを感じる力を呼び起こし、腹の奥に力が沸いてくる



ような気がします。経行は気分転換になり、大きな声で経を読むことは意識を保つうえで役に思われてきて、落ち着いて静かな呼吸を忘れない限り、なにがあっても人間力を回復できるような気さえしてきます。

居士林で過ごす時間は、日常とかけ離れて

いるがゆえに、摂了したときの達成感や開放感、感は毎年格別なものでありました。日の光や風、木々の青さまで違つて見え、自由にしゃべったり笑ったりする時間がまた戻ってきた幸せをかみ締めながら居士林をあとにします。当たり前のことに感謝するところを呼び起こす貴重な体験です。

魅力行動研究の一環として、故小野和輝國學院大學教授に神職の作法の指導を受けたことが縁で、朝日則安三峯神社権禰宜の指導のもと平成十四年に初めて禊を体験しました。以降、毎夏、三峯神社興雲閣で二泊三日の合宿を行っています。目的は、自然に触れ英気を養う、日本文化に親しむ、奥宮登拝、禊の体験にあります。そのほか、句会を開き、三峯の自然を詠む機会としています。山の自然に触れ、夏でも五度の滝行の体験は学生の関心が高く、これを目的に古閑ゼミに入る学生がいるほどです。数ある大学のなかで、禊を体験するゼミは少ないと思いますが、これも、三峯神社の支援あつてのことと感謝しています。

今日、神社仏閣は観光の観点からは大いに広まってきましたが、たとえば神殿に正式参拝する機会は身近にあるとはいえず、それだけに作法を知らない人が増えていきます。作法といっても難しく考えるのではなく、服装や態度、こころを整え、つつしんで神前に進み感謝の念を捧げる態度が尊いのではないのでしょうか。「長閑さや願いなき身の神詣」と

いう道歌もあります。

伊勢神宮に参拝した折のことですが、神官に服装を注意されていた参拝者がいました。ヴァチカンでも、バリ島のヒンズー教の寺院でも、だれであつても短パンやタンクトップで門をくぐるのを許すのを見たことがありません。合宿では、朝勤に参列し神職が祈る姿を間近で見聞し、大いなる存在を感じつつ拝礼し、奉納の舞を鑑賞します。それは「つつしみ」の態度となり、「徳育」を身近に引き寄せる体験となるものです。

身を慎み、言を謹む態度は、実は心力を涵養する最たることではないでしょうか。

(嘉悦大学短期大学教授)

古閑博美 (こが ひろみ)

昭和二十五年、山口県生。日本航空国際線スチュワーデスの後、日本女子大学卒業(家政学士)。東洋大学大学院修了(教育学修士)。現在、嘉悦大学短期大学部教授。魅力行動学®研究所主宰。

主著『魅力行動学入門』『ホスピタリティ概論』『魅力行動学®ビジネス講座』など

高円宮憲仁親王殿下 御ゆかりの品で綴る 宮さまの思い出展

小林 充

平成十四年十一月二十一日、御歳四十七歳で突然薨去された高円宮憲仁親王殿下は、スポーツを愛され、文化・芸術の振興、国際親善と様々な分野に御心をそそがれた御生涯の宮さまでした。

この度、高円宮殿下のご遺徳をしのびご功績をたたえて、六月十八日から二十二日までの期間、熊谷市の八木橋百貨店八階カトレアホールを会場に、「高円宮憲仁親王殿下 御ゆかりの品々で綴る宮さまの思い出展」を開

催しました。それに先立ち六月十七日には、熊谷市のホテルガーデンパレスに高円宮妃久子殿下の御臨席を仰ぎ、「宮さまの思い出展」オープニングレセプションが県内各地から約二百五十名の関係者が参加のもと盛大に行われました。

レセプションでは、世界的オーボエ奏者として活躍している渡辺克也氏が、妃殿下に御歓迎の意を込めてヨーロッパ・日本の楽曲を披露し、会場を沸かせました。

次に、高円宮妃殿下より「根付について」

の御講演を賜りました。まず、根付とは、印籠や煙草入れなどの「提げ物」を腰に提げる時に使う滑り止めの道具のことで、江戸時代以降の古根付、昭和・平成の現代根付の二つに分類され、形も大きく分けて五種類あり、形彫根付・饅頭根付・面根付・からくり根付・差根付に分けられるというお話がありました。妃殿下自らがお写しになられたさまざまな根付をプロジェクトに映し、御説明いただき、撮影エピソードなども語られ、ユーモアあふれる素晴らしい御講演を賜りました。

その後、レセプションパーティーでは、「宮様の思い出展」実行委員会代表の中山高嶺庁長の式辞に始まり、来賓を代表して千家尊祐

出雲大社宮司に祝辞を頂戴し、高円宮妃殿下の暖かいお言葉を賜り、八木橋宏純株式会社八木橋代表取締役社長の音頭で乾杯が行われ、多くの参加者が高円宮妃殿下と親しくお話をされた華やかな祝宴となりました。

そして初日の十八日は、妃殿下の御臨席によりテープカットが行われ、その後、妃殿下が来賓の方々と共に会場を巡り、高円宮殿下のエピソードを交えながら展示品についてくわしく御説明されました。期間中は約三千名の入場を記録し、大盛況のうちに終了いたしました。

(庁報編集委員)



第三十回埼玉県神社関係者大会報告

東 秀 幸

第三十回埼玉県神社関係者大会が六月二十五日、北葛飾支部を当番として、幸手市「アスカル幸手」のさくらホールにて、県内各地より約一千名の参加を頂き開催されました。

本年は天皇陛下御在位二十年という佳節に当たり、また、第三十回という節目の大会であります。来賓には、埼玉県神社本庁理事、小堀邦夫神宮欄宜、宮崎義敬神道政治連盟会長、前田孝和神社新報社取締役、衆参両院議員、県議会議員の皆様をお迎えしました。

来賓の挨拶ののち、埼玉県神社庁規定表彰者十八名、埼玉県神社総代会恒例表彰者

二十二名に対して表彰状並びに記念品の授与が行われました。

次に、ご講演を賜りましたのは、明治天皇玄孫、旧皇族であられる竹田恒泰先生であります。「皇室の弥栄」と題して、約一時間三十分、我が日本の成り立ちから古代中世近世の天皇、天皇を中心とした国柄、時局の問題等について熱弁をふるって頂きました。

我が国は、『古事記』『日本書紀』が真実であることを前提に、国が形成され、運用されています。例えば、国民の祝日は敬老の日と体育の日を除きまして、全て皇室に由縁があり、その由来は記紀にあります。一方で、偽書説があり、非科学・非合理を理由に記紀神話を無価値であると決めつける向きもあります。竹田先生は、「当時の日本人の世界観・価値観・宗教観を物語るものであって、それが史実であるかどうかを論じること自体が無意味である」と断じられ、事実と真実の違いを説かれました。

同様に、女系天皇問題も男女平等・ジェンダーフリーといった現代の風潮もあり、女系天皇容認の危機にありました。このような思考・発想は、戦後教育に因るところが大きいのではないのでしょうか。教育の現場では、為

政者から見た政治史を日本史として教えています。しかし、「我が国の歴史は、天皇の歴史であり、天皇の歴史は、我が国の歴史であるはずだ」という竹田先生の視座に立つて考えてみれば、我が国への理解がより深くなると思います。

今回の大会では、唱歌の演奏を採用致しました。懐かしい楽曲に参加者の歌声がホールを包み、大変和やかなひとときとなりました。

(北葛飾支部事務局長)





初任神職研修

中山真樹

平成二十一年度の初任神職研修が八月五日から七日まで、長瀬町の寶登山神社（中山高明宮司）を会場として開催されました。

本年は、県下初任神職十三名、神社本庁より五名、計十八名の参加があり、「本庁史」、「神職奉務心得」、「神道行法（鎮魂・禊）」、「祝詞」等といった講義を受け、全員無事に研修科目を修了する事ができました。

また、受講生達は三日目の早朝、寶登山神社で毎月七日に行われている「お炊上げ祭」という特殊神事にも参列しました。

さらに、八月二十五日に東松山市の箭弓稲荷神社（澤田昌生宮司）で開催された祭式研修会にも引き続き受講し、全日程を終了しました。（庁報編集委員）

祭式研修会 8月25日(火)	初任神職研修日程表			時間
	8月7日(休)	8月6日(休)	8月5日(休)	
会場 箭弓稲荷神社	起床・洗面 朝 拝	起床・洗面 朝拝・神道行法（禊） （持田）	会場 寶登山神社	6:30
	朝食	朝食		8:00
（集合・受付）	祝 詞 （中山）	神職奉務心得 （高麗）	受 付	9:00
正式参拝・開講式			正式参拝・開講式 （研修中の諸注意）	9:30
基本作法	神社実務 （前原）	神職奉務心得 （諏訪）	本庁史 （林）	10:00
昼 食	昼 食	昼 食	昼 食	10:30
行事	祭 式	神職奉務心得 （大澤）	本庁史 （新井）	12:00
衣 紋	（千島※・高梨・竹本・千島・高麗）	神職奉務心得 （千島※）	本庁史 （新井）	13:00
	意見アンケート提出 閉 講 式	神宮に関する講義 （馬場）	神社実務 （宮澤）	14:30
閉 講 式 （解散）		夕 食	夕 食	16:00
		神宮に関する講義 （高橋※）	神社実務 （武田）	17:30
		夕 拝	夕拝・神道行法（鎮魂・禊） （持田）	18:30
		入 浴・就 寝	入 浴・就 寝	20:00
				21:00

埼玉県神社庁研修所講師			
任期（平成二十年十一月一日～二十三年十月三十一日）			
主任講師 中山高明			
訓育主任 前原利雄			
氏 名	担当科目	奉務神社職名	
中山高明	祝詞作文・講読	寶登山神社宮司	
前原利雄	神社実務	神社庁参事	
千島幸明	祭式	三峯神社権禰宜	
高梨佳樹	祭式	第六天神社宮司	
竹本多恵子	祭式	川口神社禰宜	
馬場直也	神宮に関する講義	氷川神社権禰宜	
高橋寛司	神宮に関する講義	神社庁学芸員	
諏訪秀一	神職奉務心得	大寄諏訪神社宮司	
高麗文康	神職奉務心得・祭式	高麗神社宮司	
大澤 孝	神職奉務心得	秩父神社権禰宜	
千島直美	神職奉務心得・祭式	三峯神社権禰宜	
林 伊佐雄	本庁史	神明社宮司	
新井君美	本庁史	秩父神社権禰宜	
宮沢 傳	神社実務	神社庁主事	
武田 淳	神社実務	神社庁録事	
持田長武	神道行法	寶登山神社権禰宜	

一都七県中堅神職研修会 第十四次(甲)

朝日則安



一都七県中堅神職研修会第14次(甲)日程表

5	4	3	2	1	
8月21日(金)	8月20日(木)	8月19日(水)	8月18日(火)	8月17日(月)	
起床・洗面・清掃 国旗掲揚 稊行(持田) 朝拝					6:00
朝食					8:00
講話 (中山)	神社関係 法規 (前原)	宗教法人 を取り巻く環境変化 (塚崎)	宮中祭祀 について (三木)	受付 (9:30) 改服	9:00
正式参拝 閉講式	神社関係 法規 (前原)	後継者問題について (新井)	宮中祭祀 について (三木)	開講奉告祭 開講式オリエンテーション	10:30
直会					12:00
昼食					13:00
解散	伊勢神宮 と神々の 美術 (原田)	祭祀演習 (茂木)	神饌について ～民俗学の 立場から～ (田中)	古語拾遺 (藤森)	
	伊勢神宮 と神々の 美術 (原田)	祭祀演習 (茂木)	神饌について ～民俗学の 立場から～ (田中)	古語拾遺 (藤森)	14:30
	伊勢神宮 と神々の 美術 (原田)	祭祀演習 (千島)	神饌について ～民俗学の 立場から～ (田中)	古語拾遺 (藤森)	16:00
夕拝・国旗降納					17:30
夕食・班長会議・班会議					18:30
レポート				自己紹介	19:30
入浴					20:30
消灯・就寝					22:00

東京渋谷区明治神宮神苑にあります明治神宮会館を会場に、「一都七県中堅神職研修会第十四次(甲)」の研修が、平成二十一年八月十七日から二十一日に亘り、五十四名(県

内神職十六名)の参加で開催されました。この研修は、斯界の中核を担う現任神職が相互に研鑽し、自己啓発に努める場として行われています。

研修中には、朝夕の明治神宮大前での神拝行事並びに、神道行法としての稷行が毎朝行われました。初日の神道古典では、藤森馨国士館大学教授による「古語拾遺」、二日目の時局問題では、三木善明元宮内庁掌典職掌典補による「宮中祭祀について」、並びに田中宣一成城大学教授の「神饌について」民俗学の立場から」の講義が行われました。三

日目には、塚崎智志野村證券(株)公益法人課長の「宗教法人を取り巻く環境変化」、新井君美神社庁研修所講師の「後継者問題について」、次いで「祭祀演習」は、茂木貞純國學院大学教授による祭祀についての講義が行われ、引き続き千島幸明神社庁祭祀講師、高梨佳樹・竹本多恵子神社庁祭祀助教による祭祀演習が行われました。四日目の「神社関係法規」では、前原利雄神社庁参事が神社実務の諸問題について講義されました。午後からは、上野の東京国立博物館に会場を移し、同館平成館において開催中の「伊勢神宮と神々の美術」に合わせて、原田敏一上席研究員による講義が行われ、その後、この特別展を鑑賞しました。

最終日には、中山高嶺神社庁長による講話、

引き続き閉講式が行われました。今夏は全国各地で新型インフルエンザが流行する中、当番神社庁とし迎えた当研修会が、参加されたが何事もなく研修が終了でき安堵いたしました。

(庁報編集長)

一千万家庭神宮大麻奉斎運動「モデル支部制度」活動状況

第二期モデル支部（入間支部）

原 将 英

入間支部では、一千万家庭神宮大麻奉斎運動「モデル支部制度」の第二期モデル支部に指定され、平成十九年より三カ年に亘り活動を行っております。

戦前の日本にありましては、神宮大麻を祀ることは、日本人の当然の義務であると考えてこられました。大東亜戦争終結後六十四年過ぎた今日、神宮大麻や氏神様を敬う心が大変薄らいでしまいました。

当支部では、今の日本人は子に孫に、次の人々に祭事を傳承しないようになり、これによって家庭での祭事が軽視されることを憂い、以下のような活動を推進してまいりました。

まず、神宮からご提供いただいた簡易神棚を有効に使わせていただく事と致しました。各宮司の氏子区域において、最低五軒は新しく神まつりを始めていただくよう目標を立てて、神棚を頒布すると共に神宮大麻を頒布する事に致しました。また、活動しやすいように、ポスター並びに神宮大麻の申込書を作成し、各宮司・神社に配布し、一人でも多くの方が神まつりをしているように、教化活動を行いました。この活動により、大麻の増頒布に繋がると考え実践いたしました。なお、この事業は、モデル支部指定が終了した後でも継続して行うことに致しております。

今後も、新しい方策を模索しつつ、神宮と氏神様を敬う心を醸成させる活動を行い、家庭のまつりの重要性を各氏子に理解していただき、五年・十年後には、次世代の人々が見習うような活動になるよう、今後も一つ一つ進めていきたいと考えています。

（入間支部支部長）

第三期モデル支部（南埼玉支部）

押 田 豊

南埼玉支部では、本年より北足立・入間に引き続いて、第三期（平成二十一年度から二十三年度）のモデル支部として三カ年の指定を受けました。

この指定を受け、去る七月二十二日、大宮清水園において、本社より轡田勝繁本宗奉賛部長の来訪をいただき、モデル支部制度の目的および、第一期から現在までの活動経過、諸問題等を講話いただきました。

当日は、原将英入間支部支部長他入間支部の執行部と南埼玉支部の役員及び事務局が参加し、ご指導を仰ぎました。

当支部としては、今後の活動を円滑に遂行すべく、九月中旬に支部内全神職を招聘し、モデル支部に対する意識の共有と、三カ年の具体的行動目標をしっかりと定め、総代諸氏を始め神社関係者と共に実践に努めたいと考えています。

モデル支部としてこれまで行動された、各県そして当県北足立・入間両支部の諸活動を報告書等により再確認させて頂き、南埼玉支部としても、先の指定県の際や、これまでに行ってきた神宮大麻増頒布に向けての諸活動だけに留まることなく、この「一千万家庭神宮大麻奉斎運動」が、素晴らしい精神（こころの）文化を継承してきた我が日本の「再生行動」に繋がるよう、一丸となって邁進する所存です。皆様方の温かいご指導ご支援を宜しくお願い致します。

（南埼玉支部支部長）

式年遷宮・神宮大麻告知事業活動報告

関山 知 竜

教化委員会神社実務部は、平成二十一年六月十三日、越谷市大沢・香取神社（小林桂子宮司）の境内をお借りして、第三回目の遷宮・大麻告知事業を行いました。同神社では、毎月第二土曜日に骨董市が開催されており、さらに、南埼玉支部が神宮大麻増頒布モデル支部に指定されたという理由から、告知事業の会場として選ばせていただきました。

今回も、第一回目（川越 氷川神社）、二回目（高麗神社）同様、映像やパネルを展示し、遷宮のチラシとパンフレットをお渡ししました。また、積極的に話をさせていただくことで、遷宮への理解度や奉賛の状況などをお聞きすることができました。

骨董市にお見えになる方は、年配の方が多くとの予想もしておりましたが、実際には女性やお子様連れの方も多く見られました。駅周辺の神社ということもあり、幅広い年齢層の方が参拝に來られ、二百部用意したチラシは、午後一時ごろにはすべて配布することができました。

今回、印象的だったことは、今までの二回の事業と比べ、「遷宮」をご存知の方が多かったということです。同神社での奉賛活動がちょうど行われていたことも理由のひとつと考えられますが、過去二回の事業ではお聞きすることのなかった特筆すべき別の理由があるようでした。それは、前回の第六十一回式年遷宮の後、同市の久伊豆神社では鳥居を譲り受けられ、そのお木曳きが行われたということです。このお木曳き行事を多数の方が覚えていて、また実際に参加されたなどの声をお聞きました。

現在神社界では、第六十二回式年遷宮の告知事業が盛んに行われ、今回の遷宮を成功させるための奉賛活動を中心に各神社、各神職が活動しております。しかしながら、遷宮の心をもつ未来につなげるため、奉賛が終わった後のPR活動の重要性を深く感じました。

(神社実務部員)



第九回祭祀舞研修会報告

馬場 昭子

八月三日、寶登山神社を会場に二十五名の参加で祭祀舞研修会を開催致しました。

発足当初は参加人数も少なく、祭祀舞は大社に常勤の巫女さんだけに必須なものと思われており、民社では到底縁の無いものと考えられていましたが、研修会を重ねるごとに人数も増え、國學院大學の学生たちも参加するようになり、今では人数制限するまでに発展して参りました。

まず、私達自信が習得することにより、何か尊いものが得られるのではないかと、期待を胸に練習に励んでいます。その想いはだんだん浸透し、活動的な女性神職は、地域の小中学生やお正月のアルバイト学生に伝授することにより、年中行事に花を添える結果をもたらしています。また、「お宮と親子の集い」のお陰も加わり、少しずつではありますが、地域の神社の存在をアピールできているのではないかと思います。

今後の課題は、習得した祭祀舞を宝の持ち腐れにせず、どのように展開していくかということです。教育基本法が改正されたことにより、伝統文化を大切にすることが謳われるようになった今、私達にしかできない地道な活動が、いつか花開くことを願っています。埼玉県神道婦人会事務局



平成二十二年神話カレンダー

中村大徳

本年も平成二十二年の神話カレンダーを、二月から会議を重ね、教化事業部で製作させて頂きました。例年通り、絵のご担当を笠原正夫先生にお願いし、文章は、「子供にも分かり易いように」を心がけ、日本神話のすばらしさを伝えるべく、部員で作成、校正しました。また今回も、カレンダーとして使用した後も、活用できるように紙芝居風に仕上げました。

今回で十作目となる神話カレンダーは、三種の神器、特に鏡（天照大御神）についてのお話です。現在、式年遷宮に向けて、伊勢神宮で諸行事が行われている中、神代からの鏡の変遷、ひいては、神宮が現在の地にある経緯等を、カレンダーを手にした方が、神宮について少しでも理解してもらえるように、時代、場面を選び、文章を作成しました。

内容としては、初めの部分は、天孫降臨までの鏡にまつわる場面で、天照大御神に日本の国を治めるようにと、命令を受けた邇邇芸命が鏡とともに、日向の国に天降るお話です。続いて、神武天皇の御代では、日本の国を治めるのに、良い場所を探す旅に出るお話で、崇神天皇の御代では、鏡に対するお祭りの仕方を、再考しようとしているお話です。最後は、天皇の皇女に天照大御神（鏡）の祭

祀を委ね、より良い鎮座地を見付けるために、天照大御神と倭姫命と一緒に旅に出て、伊勢の地に辿り着く流れになっています。

今回は鏡のことを主眼に置いたため、話と話の間に、時間的な空間ができてしまうために、年間六枚分が一貫性のある文章になるかどうか、製作段階で一抹の不安がありました。が、読み易く、流れのあるお話になっていると思います。

結びに、今回も各神社、各宮司におかれましては、多数の御協賛をいただき、茲に深く感謝し、御礼申し上げます。このカレンダーが七五三祈願、年末年始の御札頒布の際などに御活用いただき、広く神話啓蒙が行われまことを期待いたします。

(教化事業部員)

神職手帳（研修手帳）改訂について

この度、埼玉県神社庁では「神職手帳（研修手帳）」を改訂しました。現在お持ちの手帳はお手元に保管いただき、今後の研修会には、新しい手帳をご持参下さい。

なお、改訂にあわせ神社新報社発行「神職手帳」が収まるビニールカバーを作成しました。また、ビニールカバーのみ五百円（送料込み）で頒布いたします。お問い合わせは神社庁まで。

「神社のお祭りガイドブック」増刷のお知らせ

保存版



神社のお祭りガイドブック

この度、教化委員会では、平成十七年発行以来、好評につき品切れとなっており、総代向け小冊子を増刷致しました。

総代の皆様のガイドブックとして、また神社備え付け用としてご活用下さい。

一部五十円、十部以上にて有償頒布（送料無料）致します。お申し込み・お問い合わせは神社庁まで。

鳥居付おふだ立てプレゼントチラシ配布のお願い

教化委員会の「神棚奉斎普及のための特別委員会」では、「おふだを祀る心の醸成」を図るため、本年度も引き続き、応募チラシを作成致しました。すでにご賛同頂いた宮司各位には、チラシをお送りし、配布を始めていただいておりますが、これからご賛同いただける方は、神社庁まで御連絡下さい。

なお、これまで応募締切を一回にしておりましたが、今回より通年の応募が出来るように変更し、毎年、九月十五日・二月十五日の抽選で各一千名にプレゼントすることに致しましたので、年間を通して地域の未奉斎家庭を中心に年間の行事や外祭等、様々な機会にお配り頂きますようご協力お願い致します。

庁務日誌抄

庁務日誌抄					
5・18	教化事業部会	於 神社庁	6・29	遷宮奉賛会県本部評議員会	於 神社本庁
5・19	神社本庁諸会議・班幣式・表彰式他		8・8	遠藤・池永受講	於 神社本庁
5・25	祭儀研究部会	於 神社庁	8・17	鳥崎・東角井受講	於 神社本庁
5・26	神社庁研修講師会	於 大宮・氷川神社	8・20	一都七県神社庁中堅神職研修会第十四次(甲)	於 明治神宮会館
5・27	神社庁会計監査会			五十名受講	
	神政連県本部監査会・役員委員会合同会議	於 大宮・氷川神社		教化委員会正副部長会	於 行田八幡神社
5・29	庁報編集会議	於 大宮・氷川神社	6・1	畠山 知徳	新 氷川神社権禰宜 (北足立)
6・4	神社庁祭式講師研究会	於 神社庁		宮本 洋平	新 峯ヶ岡八幡神社禰宜 (北足立)
6・5	遷宮奉賛会県本部役員会・神社庁役員会	於 パレスH大宮	7・1	河野 健明	兼 天神社外十七社宮司 (北埼玉)
6・9	神宮・同崇敬会参与・評議員会	於 伊勢		新井 直行	兼 貴布祢神社宮司 (秩父)
6・12	第二十七回神社本庁教学研究大会	於 伊勢	7・7	東 秀幸	本 幸宮神社宮司外十九社 (入間)
6・13	武田録事出席	於 神社本庁	7・15	橋本 充臣	新 氷川嶽神社禰宜 (北葛飾)
6・16	神宮大麻告知事業	於 越谷・香取神社	8・1	武本 宣比古	本 富士浅間神社外四社宮司 (入間)
6・17	情報部会	於 蓮田・藤沼宅	7・27	神社庁祭式指導者養成研修会	高麗受講
	高円宮親王殿下特別展オープニングレセプション			於 伊勢	
6・17	於 熊谷・「ホテルガーデンパレス」		6・30	河野 雪雄	兼 天神社外十七社宮司 (北埼玉)
6・18	神社庁事務担当者会	於 神社本庁		新井 雄治	本 古尾谷八幡神社外十七社宮司 (入間)
6・18	神政連諸会議			武本 雄爾	本 富士浅間神社外四社宮司 (入間)
6・18	中山・井上・曽根原・前原参事出席		7・31	川村 有史	本 氷川神社権禰宜 (北足立)
6・22	院友神職会総会	於 熊谷「八木橋」			
6・24	埼玉県神社関係者大会事前準備	於 國學院大學		川村 有史	本 氷川神社権禰宜 (北足立)
6・25	宮澤・武田・高橋出向			幸宮神社宮司	東 大 (北葛飾)
	埼玉県神社関係者大会				
	於 幸手「アスカル幸手」				



埼玉の社叢

すがや
菅谷神社

比企郡嵐山町菅谷六〇八

嵐山町菅谷は、かつて鎌倉時代初期の武将であった畠山重忠の居城、菅谷館が置かれた地である。現在の菅谷館跡（国史跡比企城館跡群菅谷館）の遺構は、戦国時代に拡大整備されたものであるが、かつての重忠の館はこの本郭部分にあったと推定されている。

当社は、この館跡から北北東へ五百メートルの位置にあり、由緒によると、畠山重忠が「軍功により菅谷の地を賜り、ここに新城を築き居住となし武運長久の守護神として近江国日吉山に鎮座なす日吉山王権現（日吉大社）の御分霊を誓願により建久元年（一一九〇）九月十九日に奉遷勧請す故に日吉山王大権現と称せし」とある。

『吾妻鏡』には、建久元年九月十六日の条に「十六日丁卯。畠山次郎重忠自武蔵国参上。是為御上洛供奉也。」と見え、重忠は、文治五年（一一八九）の奥州征伐では先陣を勤め戦功をたて、建久元年十月の源頼朝の上洛には、先陣を勤めている。よって、当社の奉遷勧請は、その準備のための帰城中にあたることから、奥州制圧成就によるものと推測される。

こうして江戸時代までは「山王社」または「山王宮」と称していたが、明治初年には「日枝神社」と改称され、さらに、明治四十年に大字内の菅谷館三番郭の土手上にあった天神社と、畠山重忠が城の鬼門除けに稲荷山古墳（町指定史跡）上に祀ったとされる稲荷神社という、菅谷館に縁のある神社を合祀して、現在の社号「菅谷神社」に改称した。

当社の五十八アールの社叢はスギの単純林であるが、百メートル以上も続く参道両側や社殿周辺にも百年以上の樹齢のスギが鬱蒼と林立しており、中でも社殿の西側にある幹周り四メートルのスギの御神木は、嵐山町の天然記念物に指定されている。

